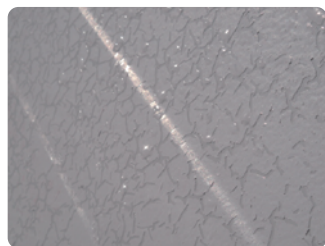


外装塗装における 低温時の注意点

“なぜ不具合がおこるの？”



ひび割れ

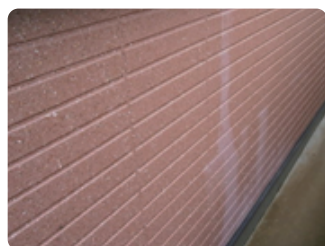


密着不良・剥がれ



こんな不具合を
起こさないために！

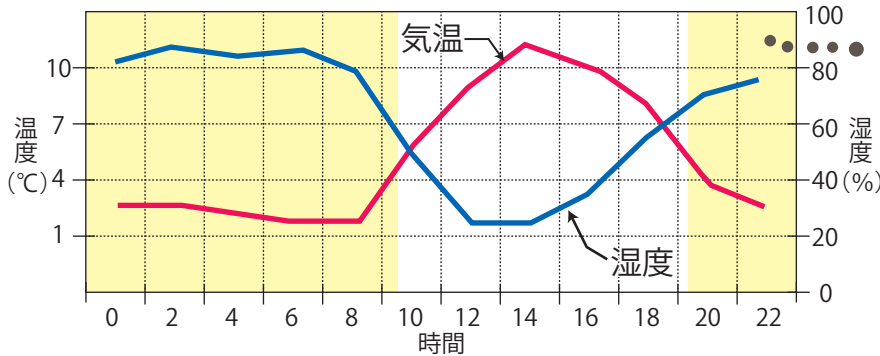
白ぼけ・変色



こんな時は施工できません！

- ① 気温が 5℃以下又は湿度 85%RH 以上の場合。
- ② 成膜までに下地表面温度が 5℃以下になる恐れがある場合。
- ③ 夜露に濡れる、降雨、降雪の恐れがある場合。

【例】 晴れの日気温と湿度変化



晴れの日でも気を付けて！
黄色ゾーンに要注意！

雲の少ない晴れの日
放射冷却で冷えやすくなります。

施工できない理由

① 塗料の性能が発揮されない。

低温下での作業や下地が冷えている場合、塗料が冷えて塗り広げにくくなり、適正な膜厚の確保が難しく、塗りムラ・塗り残しに繋がり、密着不良や性能低下などの原因になります。

② 成膜に時間がかかる。

塗料は溶媒（水・溶剤）が揮発することで塗膜になります。低温下では溶媒の揮発に時間がかかります。また、①の理由により希釈量が増える傾向にあるため、通常よりも成膜に時間を要し、更なるトラブルに繋がります。

③ 水分による成膜不良。

成膜中に降雨や結露などで水分の影響を受けると、成膜不良となり、白ぼけ・ひび割れ・艶ムラ・変色が起こりやすくなります。



放射冷却による凍結



色ムラ・変色

対策

- ① 下地表面が日光で温まり、乾燥するのを待ってから塗装する。
- ② 塗料は 0℃以下の場所で保管しない。
- ③ 作業後含め、天気予報（雨・気温・温度・湿度）をチェックする。
- ④ 冬場の高圧水洗は、乾燥に 3 日以上期間を取る。